

むつ市

家庭生ごみ堆肥化

処理機を設置

実証事業開始



実証事業で使用する
処理機=22日、むつ
市

むつ市は22日、家庭から排出される生ごみを堆肥化して家庭菜園などで活用する地域循環型社会に向けた実証事業を同市品ノ木地区で始めた。住民のリサイクル意識の啓発やごみの減量化などにつなげるのが目的。本年度末に成果を検証した上で、将来的には市内各地での導入を視野に入れている。

(澤田淳一)

同市の市民一人当たりのごみ排出量(2016年度)は111.8kg。全国平均の92.5kgを上回って、県内市町村でワースト4位となってしまい、処理費用の増大が課題となっている。下北ジオパークにちなん

で「地域循環型社会ジオサイクル推進事業」と題した取り組みは、県の地方消費行政強化交付金を活用して実施。同地区的3町内会が、処理機を設置した地元のリサイクル業者・ゆうあいむつに生ごみを随时持ち込み、出来上がった堆肥を随时利用する。市への申し込みがあれば、他地区的住民も利用可能という。

処理機に投入した生ごみの体積は、最終的に菌や熱の力で10分の1程度になる。タマネギの皮や貝殻、甲殻類など分解できないものもあるため、市は町内会を通じて生ごみのさらなる分別などを周知する考えだ。

22日は同地区で運用開始セレモニーが行われ、宮下宗一郎市長が「地域を挙げて大地の力を生ごみを再生する事業。何とか成功させ、市内全域に広げたい」とあいさつし、処理機のスイッチを入れた。

女子部員がパワーハラ被害を訴え、女性監督が解任された問題で、日大は22日、「パワーハラに該当する」との調査結果を公表した。

女子部員は9日、暴言などの被害があったとの声明を公表し、日大は同日付で解任を発表。日大の人権教育委員会が詳しい経緯を調べていた。

日本大応援リーダー部

日本大応援リーダー部女子部員がパワーハラ被害を訴え、女性監督が解任された問題で、日大は22日、「パワーハラに該当する」との調査結果を公表した。

前監督のパワーハラ認定

日本大アゼブ 大学側が調査結果

せ、市内全域に広げたい」とあいさつし、処理機のスイッチを入れた。参加町内会の一つである

力したい」と話していた。

品ノ木町内会の橋岡隆一会長は「各世帯に周知を図り、ごみ排出量の削減に協力したい」と話していた。

施工不良問題でレオパレス提訴

岐阜の男性、全国初

で施工不良が見つかった問題で、所有する物件に建築基準法に違反する瑕疵があ